

岡山大学構内遺跡調査研究年報 3

1985年度

岡山大学埋蔵文化財調査室

岡山大学構内遺跡調査研究年報3

1985年度

岡山大学埋蔵文化財調査室

序

1985年度の調査室の事業は、出土遺物の整理や報告書作成の作業が中心となりました。1983年度に農学部構内で行った津島地区遺跡群の発掘調査の報告書を刊行することができましたし、また、附属病院外來診療棟建設に伴う発掘調査の出土遺物の整理作業なども大いに進展し、これも近く印刷に付すことができる予定となっています。

発掘作業で得られたさまざまな資料を整理研究し、報告書を完成するまでには相当な期間を要します。遺跡での発掘作業と同じか、あるいはそれ以上の期間を必要とする場合も決して稀なことではありません。建設工事の増加にともなって遺跡での現場作業に追われる傾向が本学でも顕著となりつつありますが、緊急調査における報告書刊行の意義をいま一度おもいおこしてみることも必要です。何百年、何千年とつづいてきた文化遺産の生命を現代の建設工事で絶ち切らざるをえなくなったとすれば、その遺跡をできるだけ高度な学問の力を集めて調査し、記録と研究成果を後世に伝えることが、現代人のせめてもの義務といわなければならぬのではないかでしょうか。報告書を刊行しなければ決して発掘調査の事業が完了したことにならない、といわれるのもそのためにはかなりません。

発掘調査後の整理研究作業には、期間ばかりでなく人手も経費も必要です。これらの諸条件を調査担当者のみの力でととのえることは、とても不可能なことで、施設建設の関係者をはじめとして多くの機関や個人の協力を得ることが必要となります。幸い本年度のこうした事業においては、岡山大学施設設定委員会埋蔵文化財保護対策検討専門委員会および岡山大学事務局の深い理解と協力を得ることができ、また調査研究にあたっては、文学部考古学研究室の援助もうけることができました。関係の機関および各位にあらためてお礼を申しあげる次第です。

1987年3月

岡山大学埋蔵文化財調査室長

稻田孝司

例　　言

- 1 本年報は岡山大学構内において1985年4月1日から1986年3月31日までに実施した埋蔵文化財の調査と保存、および岡山大学埋蔵文化財調査室の活動成果をまとめたものである。
- 2 岡山大学構内の埋蔵文化財の調査に際しては、国土座標を測量等の基準としているが、岡山大学津島地区と同鹿田地区ではその設置基準を次のように定めた。
 - 1) 岡山大学津島地区では、国土座標第5座標系 ($X = -144,500, Y = -37,000$) を基点とし、一辺50mの方形の地区割をして遺跡の位置を表示した。また、津島キャンパスは調査の便宜上、津島北地区と同南地区に二分する(図版1)。
 - 2) 岡山大学鹿田地区では、国土座標第5座標系 ($X = -149,800, Y = -37,400$) を基点とし、座標軸を N15°E に振ったものを構内座標とする。地区割は一辺5mの方形を用い、調査に対応した(図版4)。
- 3 岡山大学構内及び関連施設内の遺跡の名称は、農学部演習林内に分布する古墳群等の周知の遺跡の場合、そのまま踏襲する。津島地区構内で新たに発見された遺跡は、遺存する小字名を用いるか、岡山大学津島地区遺跡群と仮称し、地點ごとに任意の記号を用いて示す。また、鹿田地区ではこれまで用いられてきた「鹿田遺跡」を使用する。
- 4 表に記載した所属部は、原則として各学部の頭字を略号として用い、医学部附属病院等については医病という形で略した。
- 5 目次・挿図・本文中等で使用の調査番号は表1の番号に一致する。
- 6 遺構の実測は柴一郎・山本悦世・吉留秀敏が行った。遺構の淨写は山本悦世が、遺物の実測・淨写は柴・松岡かおり・山本が担当した。遺物の写真撮影は柴・山本が行った。
- 7 本文は第2章3の(1)を柴が執筆し、それ以外は山本が担当した。執筆者名は末尾に記した。
- 8 本年報に掲載の津島地区的地形は岡山市発行の1/2500の地形図を複製したものである。
- 9 編集は稻田孝司の指導のもとに山本が当たった。

岡山大学構内遺跡調査研究年報3 1985年度

目 次

第1章 岡山大学構内埋蔵文化財保護対策要項	1
1 岡山大学施設設定委員会埋蔵文化財保護対策検討専門委員会規程	1
2 岡山大学埋蔵文化財調査室設置要項	2
第2章 1985年度岡山大学構内遺跡調査報告	4
1 調査の概要	4
2 試掘調査	6
(1) 津島地区	6
(2) 鹿田地区	14
3 立会調査	16
(1) 津島地区	16
(2) 鹿田地区	17
第3章 1985年度普及・研究活動	22
1 資料整理	22
2 刊行物	23
3 調査員の活動	23
第4章 1984年度以前の活動と1985年度の遺物保管状況	24
1 1984年度以前の構内主要調査	24
2 1984年度以前の刊行物	27
3 1985年度までの遺物収蔵量および保管施設	27
(1) 遺物収蔵量	27
(2) 保管施設	28
第5章 1985年度構内遺跡の調査および活動のまとめ	29

挿図目次

図1 教養部構議棟予定地試掘調査地点・柱状図	6
図2 教育学部研究棟予定地試掘調査地点・柱状図	7
図3 学生部男子学生寮予定地試掘調査地点	8
図4 学生部男子学生寮予定地試掘溝全柱状図	9
図5 古地形復元図	10
図6 学生部男子学生寮予定地古地形復元断面模式図	10
図7 溝状遺構1～3断面図（TP 6・5東壁）	11
図8 溝状遺構4断面図（TP 1西壁）	12
図9 学生部男子学生寮予定地出土遺物（1）	12
図10 学生部男子学生寮予定地出土遺物（2）	13
図11 試掘調査④調査地点・柱状図・出土遺物	14
図12 溝状遺構 平・断面図（TP 2）	15
図13 立会調査⑬深掘り部分層序	16
図14 立会調査⑯調査地点	17
図15 立会調査⑯東側調査地点柱状図・A地点遺構平面図	18
図16 立会調査⑯西側調査地点柱状図	19
図17 立会調査⑯西側調査地点 井戸・溝状遺構東壁断面図	19
図18 立会調査⑯出土遺物	20
図19 立会調査⑰—4調査地点	21
図20 立会調査⑰—4柱状図	21
図21 旧精神科棟	28

表 目 次

表1 1985年度における調査一覧	4・5
表2 1982年度以前の構内主要調査（1980～1982年度）	24
表3 1984年度以前の構内主要調査（1983～1984年度）	25・26
表3—(1) 発掘調査	25
表3—(2) 試掘調査	25
表3—(3) 立会調査	26
表4 収蔵遺物の現状	27

図 版 目 次

図版1 津島地区全体図	
図版2 津島北地区	
図版3 津島南地区	
図版4 鹿田地区全体図	
図版5 津島地区（教養部・教育学部試掘調査）	
1 教養部TP2南壁断面	
2 教育学部TP1東壁断面	
図版6 津島地区（学生部男子学生寮試掘調査）	
1 TP4北壁断面	
2 TP9西壁断面	
図版7 津島地区（学生部男子学生寮試掘調査）	
1 TP6東壁断面（溝状遺構1・3）	
2 TP5東壁断面（溝状遺構2）	
図版8 津島地区（学生部男子学生寮試掘調査）	
1 TP1西壁断面（溝状遺構4）	
2 TP1南壁断面	
図版9 津島地区（学生部男子学生寮試掘調査）出土遺物	
図版10 鹿田地区（試掘調査④）	
1 試掘調査地点（南から）	

2 TP 1 南壁断面

図版11 鹿田地区（試掘調査④）

1 TP 2 東壁断面

2 TP 2 溝状遺構完掘状況（西から）

図版12 鹿田地区（試掘調査④）

1 TP 3 西壁断面

2 TP 3 流木検出状況（南から）

図版13 鹿田地区（試掘調査④・立会調査⑥）

1 試掘調査④ 出土遺物

2 立会調査⑥ 遺構完掘状況（東から）

第1章 岡山大学構内埋蔵文化財保護対策要項

1 岡山大学施設設定委員会埋蔵文化財保護対策検討専門委員会規程

第1条 岡山大学施設設定委員会規程（昭和41年岡山大学規程第3号）第9条の規定に基づき、岡山大学施設設定委員会埋蔵文化財保護対策検討専門委員会（以下「専門委員会」という。）を置く。

第2条 専門委員会は、岡山大学の敷地内の埋蔵文化財の保護対策について必要な事項を審議する。

第3条 専門委員会は、次の各号に掲げる委員で組織する。

- 一 各学部長及び教育部長のうちから互選された者1人
- 二 施設設定委員会のうちから各学部及び教養部ごとに推薦された者1人
- 三 専門的知識を有す本学の教官のうちから2人
- 四 その他学長が必要と認めた者

第4条 専門委員会に委員長を置き、前条第1号の委員をもって充てる。

第5条 委員長は、会議を招集し、その議長となる。

2 委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する。

第6条 委員長が必要があると認めたときは、委員以外の者の出席を求め、その意見を聞くことができる。

第7条 専門委員会に幹事を置き、庶務部長、経理部長、施設部長、及び学生部次長をもって充てる。

第8条 専門委員会の庶務は、施設部において処理する。

附 則 この規則は、昭和57年2月25日から施行する。

委員長 緒方正名（医学部長）1985年6月13日まで

タ 秋山和夫（医学部長）1985年6月14日から

委員 吉田晶（文学部教授） 中山 沢（医学部教授）

近藤義郎（文学部教授） 小田嶋悟郎（衛生学部教授）

稻山孝司（文学部助教授） 大和正利（薬学部教授）

中嶋康輔（教育学部教授） 中田高義（工学部教授）

上村明廣（法医学部教授） 小西国義（農学部教授）

橋本博之（経済学部教授） 渡邊基（教養部教授）

武丸恒雄（理学部教授）	野原望（医学部附属病院長）
幹事近藤寛（庶務部長）	栗柄俊明（施設部長）
勝俣美治（経理部長）	星野啓二（学生部次長）

専門委員会審議事項

1985年7月31日 事務局にて開催（欠席者2名）

- 1 埋蔵文化財調査室長辞任の意志表示に伴う後任の推薦について
新室長に稻田孝司委員就任決定
- 2 吉留秀敏調査員退職後の後任について
主任調査員に技術補佐員 采一郎就任決定

1986年3月26日 事務局にて開催（欠席者4名）

- 1 1986年度埋蔵文化財調査予定について
 - ・医療技術短期大学部新館工事に伴う発掘調査
 - ・学生部男子学生寮改築工事に伴う発掘調査
 - ・教養部構造棟新館工事については立会調査を実施
- 2 埋蔵文化財資料館の設置について
- 3 医学部附属病院外來診療棟前庭駐車場試掘調査報告
- 4 埋蔵文化財調査室移転の報告
整理・収蔵施設として借用していた旧精神科棟が取り壊しとなるため、病院管理棟の一部へ移転を計画中

2 岡山大学埋蔵文化財調査室設置要項

- 1 岡山大学施設設定委員会埋蔵文化財保護対策検討専門委員会（以下「専門委員会」という。）に、岡山大学埋蔵文化財調査室（以下「調査室」という。）を置く。
- 2 調査室は、専門委員会に必要な資料を提供するため、岡山大学の敷地内の埋蔵文化財に関する次の業務を行う。
 - 一 保護、調査、発掘等の実施計画の立案に関すること。
 - 二 保護、調査、発掘等の実施に関すること。
 - 三 保護、調査、発掘等の報告書の作成に関すること。
 - 四 その他必要な事項
- 3 調査室には、室長及びその他必要な職員を置くことができる。
- 4 この要項は、昭和58年3月1日から実施する。

室長 (併) 近藤義郎 (文学部教授) 1985年9月2日まで
(併) 稲田孝司 (文学部助教授) 1985年9月3日から

室員 (専) 古留秀敏 (文学部助手) 1985年6月30日まで
(専) 山本悦世 (歯学部助手)
(専) 宋一郎 (技術補佐員) 1985年9月16日まで
(文学部助手) 1985年9月17日から
(専) 山田雅子 (技術補佐員) 1985年9月17日から

補助員 青木道治郎
八谷隆生
宮原博幸
伊藤真 1985年9月1日から
力竹孝典 1985年9月1日から

第2章 1985年度岡山大学構内遺跡調査報告

1 調査の概要

埋蔵文化財調査室においては、大学構内における掘削工事に際して、事務局施設部企画課を通して行政的手続きを行った上で、発掘調査・試掘調査・立会調査に分けて調査を実施している。

現在までのところ、その調査対象は津島地区と鹿田地区が中心となっている。特に、鹿田地区ではその大半が周知の遺跡（鹿田遺跡）の範囲に指定されており、ほとんどの掘削工事に対して届出を出した上で対応している。また、津島地区においても新たな遺跡の確認が進んでいることから、届出の有無にかかわらず、少なくとも立会調査を行っている。

1985年度は試掘調査4件（津島地区3件・鹿田地区1件）、立会調査12件（津島地区1件・鹿田地区11件）を実施した。立会調査については、長期間にわたり数ヶ所に及ぶ工事についても一連の工事に伴うものは1件として数え、詳細は表1に挙げた（表1・図版2～4）。

表1 1985年度における調査一覧

番号	種類	所属部	工事名称	地区	調査期間	掘削深度(m)	確認状況
①	試掘	教養	講義棟予定地	津島南 DE08	6.5～6.6	3.5	造成土1.2m 遺物、遺物未確認
②	*	教育	研究棟予定地	津島北 AX02	6.4～6.8	2.6～3.4	造成土1.2m 縄文・弥生前期土器片
③	*	学生部	男子寮新館予定地	津島北 AV～AW59～01	6.3～6.8	2～3	造成土1.0m 縄文～中世遺構・遺物
④	*	医療	外来診療棟建設工事に先立つ範囲確認調査	鹿田 AI33 AI・AK26 AI・AM40～41	12.23 ～12.27	2.2～3	造成土0.9～1.4m 弥生～中世の遺物
⑤	立会	医療	排水管修繕工事	鹿田 DH30～31	4.20	2	掩私内
⑥	*	*	外来診療棟関係屋外排水管設工事	鹿田	6.21～7.16		
			1) 外来診療棟 東	AX～BF23 BG～BH24～25	6.21～7.16	1.3～1.7	造成土0.8m前後 中世・弥生遺構・遺物
			2) BH外来診療棟 北～西	AG37～40 AI～AS11 AS30～40	7.1～7.16	1.3～1.5	造成土0.7～1.3m 中世の遺構・遺物
⑦	*	*	外来診療棟改築に伴う東面外部タンク設置	鹿田 BD24	7.16	0.6	造成土中
⑧	*	*	看護学校舍内水道メーター取設工事	鹿田 CS68	8.7	1	*
⑨	*	*	混合病棟蒸気排管補修	鹿田 BB・BC15	8.29	0.6	*
⑩	*	医療	水消防メーター取設及び修繕工事	鹿田 AE・AF53 AT53 BO63 BO64	8.30 9 8.31 9.2	0.7 1.5 1 0.7	*

番号	種類	所属部	工事名 称	地 区	調査期間	掘削深度(m)	確認状況
⑩ 立会 医			基幹環境整備 排水その他工事	鹿田	9.13~10.1		
			1) 基礎医学棟配管	AX53~54 AX56~58 AW58	9.13 9.18~19	0.8 0.6	造成土中
			2) 外来棟西北部配管	AT39	9.20	1	ほぼ造成土中
			3) 図書館棟配管	AM48~52	9.21	0.65 一部1.1	造成土0.8m 水田層0.3m
				AK~AM46~47	9.23	0.6	造成土中 一部で造成土0.4m
				AO43~46 AO~AT43	9.24	0.4	造成土中
				AN42~43 AO~AS42 AS39~41	9.24~25	1	造成土0.82m 水田層0.16 近景土器層り検出
			4) ガス管工事	AM45 AI43~45	9.26~30	0.7	造成土中
			5) 受水槽基礎	AM46	10.1	0.6	*
			基幹環境整備 緑化工事	鹿田	10.9~1.20		
⑪ + 医 痘			1) 外来棟西	AT~AV40 BA35~43	10.9~17	0.5~1.1	
			2) 外来棟北	AK~AL35~39 AM~AR39 AG~AI 34~38周辺	12.3~9	0.8~1.1	造成土0.8m
			3) 電気配線ハンドホール掘削	AG31	'86.1.18	1.7	造成土1.3m 中性包含層・砂層
				AG24	'86 1.18~19	1.3	造成土0.9m 中性包含層(落込みあり)
				AF23	'86.1.20	1.2	造成土1.1m 中性包含層、ピット
			基幹環境整備 排水その他工事	鹿田	10.14 ~2.26		
			1) ガス管工事	AO42	10.14	1.3	造成土0.9m 下に水田層
				AY~AZ42	*	*	*
			2) 電柱岸設	AD41	10.16	1.5	造成土中
			3) 電気配線	AM46	10.7	0.5~0.8	*
⑫ + 工			4) 守衛所新設	AE20~23	11.5~6	0.6	*
			5) 排水管埋設状況	AZ23	'86.2.26	0.6	*
⑬ + 水				BB22~23	*	1.15	造成土は1m
			三次元棟新設関係 排水管埋設工事 三次元棟建築	津島北 AV06~07	10.29 ~11.1	1.5~1.7	造成土は1~1.5m +芯砕石
⑭ + 水			屋外給水管埋設状況調査及び量水器取設工事	鹿田 BH~CF54	12.21	0.6~1.3	造成土中
⑮ + 水			水道管埋設工事	鹿田 CA~CS73	'86.1.9	0.3	*

2 試掘調査

本年度は津島地区で3件、庵田地区で1件、合計4件の試掘調査を行った。次に各々に関する概要を報告する。

(1) 津島地区

① 教養部構議棟予定地（津島南地区、D E 08区）

調査経過

3×3 mの試掘坑を12m間隔に2ヶ所（TP1・2）設定し、機械によって厚さ1.2mの造成土を除去した。その後、地表下3.5mまで掘り下げたが、遺構・遺物は検出されなかった。土層断面観察を行い、調査を終了した。期間は1985年6月5日～6日の2日間である。

調査結果（図1・図版5-1）

西側に位置するTP1ではTP2に比べ7～10層の検出レベルが40～50cm低く、また、7層と10層の間に認められる砂層も東側より厚く、その3倍にも達す。このことから、TP1周辺（西側）では7層形成以前から深い谷地形が形成されており、洪水砂によって急速に埋没しながらも、6層が堆積するまで低地にあったことが推定された。

両試掘坑において遺構・遺物が未検出であること、そして津島地区的状況を考慮に入れるとTP2でさえも低位部分にあたることから、当地点に遺跡が存在する可能性は低いと判断した。

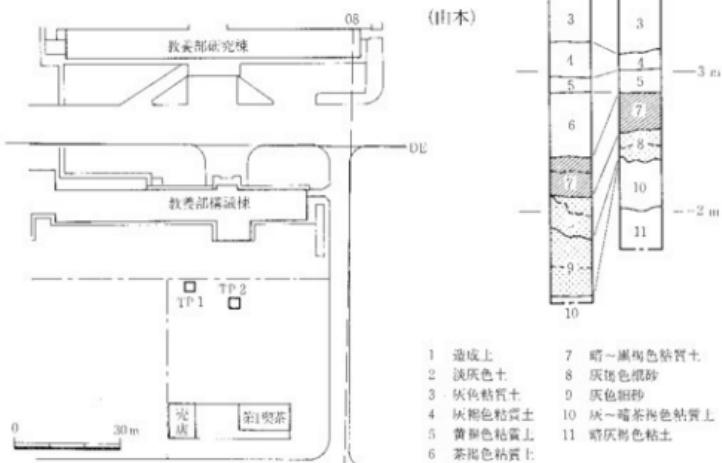


図1 教養部構議棟予定地試掘調査地点・柱状図 (1/1600・1/40)

② 教育学部研究棟予定地（津島北地区、A×02区）

調査経過

$3 \times 3\text{ m}$ の試掘坑を約 22 m 間隔で 3ヶ所 (TP 1~3) 設定した。厚さ約 1.2 m の造成土は機械で除去した。西側の TP 1・2 では地表下 2.6 m 前後まで、また、東端の TP 3 では地表下 3.4 m まで掘り下げ、土層断面を観察し、調査を終了した。期間は $1985\text{年} 6\text{月} 4\text{日} \sim 8\text{日}$ の 5 日間である。

調査結果（図2・図版5-2）

まず、8層以下の状況を検討してみると、西端の TP 1 と東側の TP 2・3 とでは大きな差を示す。TP 1 で認められる 11 層は砂質の強い土層で、全体的に汚れた状況を示す。部分的に炭化物、焼土、土器等の集中箇所が認められ、遺構の存在が推定される。上面のレベルは標高 3 m を測る。一方、TP 2・3 では粘土層（9層）の堆積が確認され、TP 3 では、それより下層は粘土と砂がラミナ状構造を形成し、炭化物を多く含む層が統くなど低湿地の様相を呈す。また、TP 2・3 の間では TP 2 に向って下降する傾向が認められ、調査地点の中央部にあたる TP 2 周辺が谷状地形を形成していることが窺われる。堆積時期は 11 層から縄文後期土器

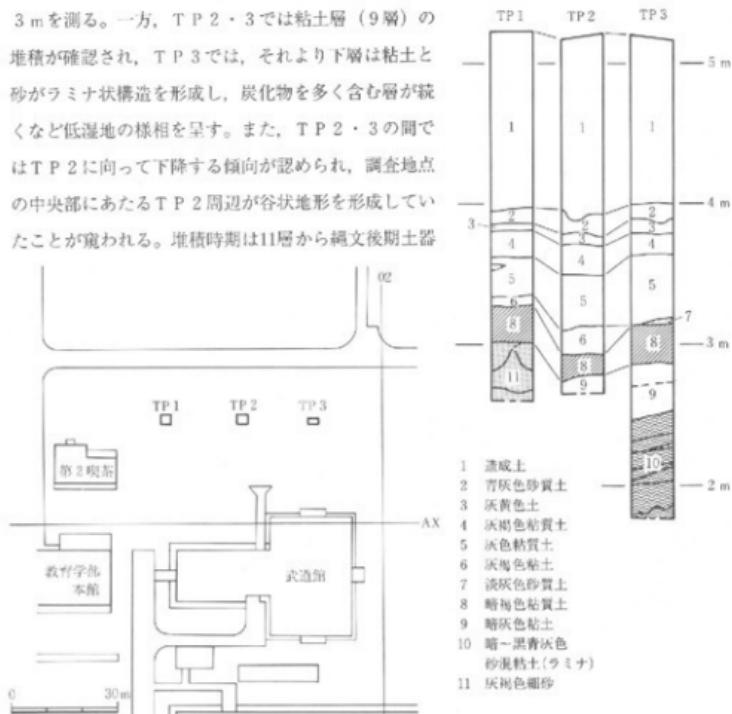


図2 教育学部研究棟予定地試掘調査地点・柱状図 (縮尺1/1600-1/40)

片（中津式）の出土が認められたことから、該期に層すると考えられる。

次に、8層段階でも、中央部（TP2部分）の落ち込みは顕著であり、上面レベルはTP1：標高3.3m、TP2：標高2.93m、TP3：標高3.13mを測る。時期はTP1の8層上半部から弥生時代前期の壺の口縁部とみられる土器片が、TP3の下半部から縄文時代後期中葉の上器片が各々出土していることから縄文—弥生時代前期と考えられる。

5層の段階に入るとTP1と3では、その上面レベルを同じくするまでになり、TP2のみが以前としてやや低い地形を呈す。中世土器片がTP2・3から出土しており、該期の水田層の可能性が高い。

以上のように、弥生時代前期以前の地形はTP2周辺が特に低く、TP3と共に低湿地をなし、西側には微高地が形成されていたと想定される。そして、微高地部分には縄文時代後期の遺構が、また、低湿地には弥生時代前期の水田が存在した可能性が高いと判断される。そして、中世には広く水田化が進む状況が想定される。
(山本)

③ 学生部男子学生寮予定地（津島北地区、AV～AW99～01区）

調査経過

予定地に3×3mの規模の試掘坑を14ヶ所（TP1～12）設定し、機械によって約1m前後

の造成土を除去し、深さ2～

3mまで握り下け調査を行っ

た。期間は1985年6月3日～

8日の6日間である。

調査結果（図3～10）

試掘坑TP1～12から図4

の層序が確認された。

1層は造成土、2層は明治

期の水田層、3層から6層は

古代～近世の堆積層と考えら

れるが、遺物が乏しく確実な

年代は不明である。

以上の各層は各試掘坑におい

て共通の様相を示す。

9層は、津島地区全域にわ

たって存在している黒一暗褐

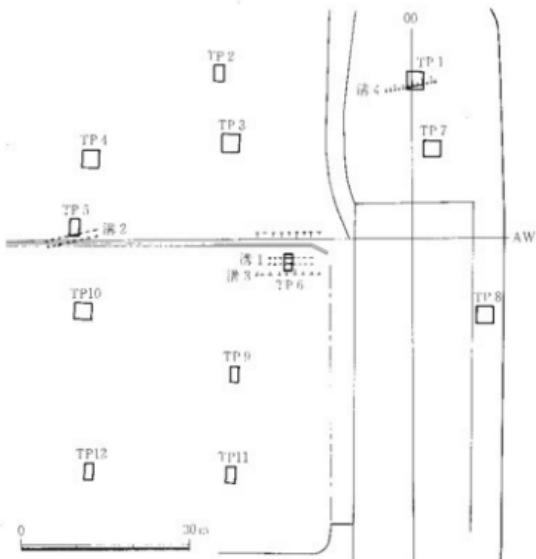


図3 学生部男子学生寮予定地試掘調査地点 (縮尺1/1000)



- 1 未成土
- 2 青灰色沙質土
- 3 黃褐色沙質土
- 4 茶~黃褐色沙質土
- 5 黑褐灰黑色沙質土
- 6 離瓣狀色土
- 7 灰茶~黃褐色粘土
- 8 灰褐色粘土
- 9 黑一暗褐色粘土
- 10 單茶灰黑色質土
- 11 茶葉狀色土
- 12 灰茶褐~暗黃褐色粘土
- 13 灰色粘土
- 14 黃褐色細沙

圖 4 學生部學生寮預定地試掘調查柱狀圖 (縮尺1/40)

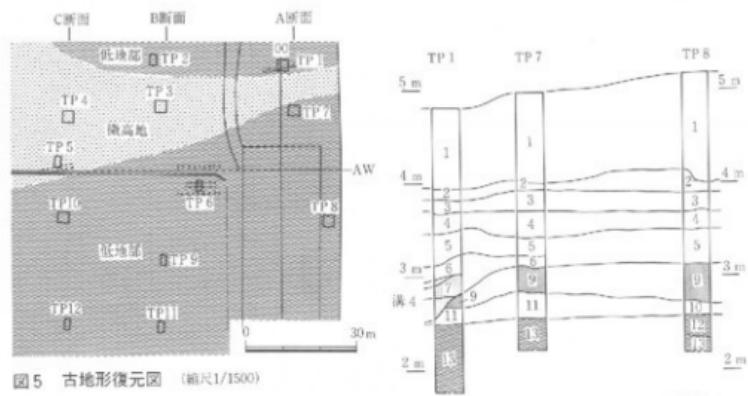


図5 古地形復元図 (縮尺1/1500)

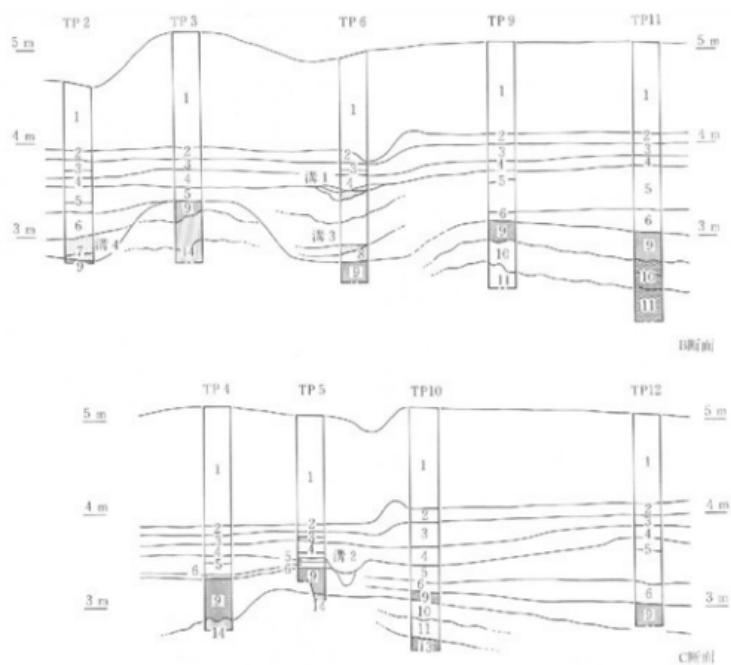


図6 学生部男子学生寮予定地古地形復元断面模式図

色粘質土層であり、TP 8においてはその上面で弥生前期土器（図10—15）がTP 1・3・4・8・11・12では層中から縄文土器片（図10）が出土している。1983年度に実施した津島地区農学部構内の調査結果を参考にすると本層の堆積時期は縄文時代晩期から弥生時代前期にかけての時期と考えられる。

9層以下の層序からは黄褐色砂（14層）を基盤とする微高地部（TP 3～5）と粘土（10～13層）が堆積する低地部（TP 1・2・6～12）とに大別され、9層堆積前の古地形が推定される（図5・6）。特に、現在の資料からはTP 6における9層のレベルが最も低く、その周辺部が深い谷状地形を呈していたと判断される。微高地部にあたるTP 3・4の14層から9層下間にかけては、縄文時代後期の土器（図9・10、図版9）がまとまって出土しており、微高地上に後期の集落が存在した可能性が想定される。一方、低地部の10～13層中からも縄文時代後期の土器が若干出土しており、時期的に微高地部の14層に対応する層と考えられる。

遺構としてはTP 1・5・6から溝状遺構1～4が検出された。

溝1はTP 6で検出された幅約90cm、深さ20cmの東西に走る溝である（図7）。5層を切り込んでおり、埋土は砂を中心とする。溝3は溝1のほとんど真下に同一方向で検出された（図7）。規模は非常に大きく調査区外に及ぶため確認は不可能であった。埋土はやはり砂を中心とする。溝1から3の間の堆積土も粘土と砂のラミナ状構造が認められることから、TP 6周辺が長期間にわたって水の影響を受ける地点であったことが窺われる。

溝2はTP 5において検出された（図7）。

① 灰色細砂粘土
② 淡灰色細砂
③ 黒褐色細砂粘土(細砂含)
④ 灰色細砂泥粘土(ラミナ状)
⑤ 雪灰色細砂

TP 6

TP 5

図7 溝状遺構1～3断面図(TP 6・5東壁) (縮尺1/30)

前述の構1・3に比べ、やや北に軸を振るが、基本的には東西方向の流れを示す。深さは約30cmを測り、砂の堆積が認められる。また、構1と同様に5層を切り込んでいる。

以上の構1～3は無遺物のため所属時期は不明瞭であるが、いずれも5層を切り込んでいることから古代～中世の時期が予想される。1982年度に発掘調査を実施した小橋法目黒遺跡²³⁾(津島北地区・AW14区)においてAWラインの少し南で東西に走る溝を検出しており、今回検出の構1～3と位置的に一致することから当時の坪境に関わる一連の遺構の可能性が考えられる。

溝4はTP1で検出された(図8)。規模等の詳細は不明であるが、埋土中より縄文後期～弥生前期の土器(図10)が出土しており、また、9層から切り込まれていることから弥生時代前期に属すると推定される。

(山本)

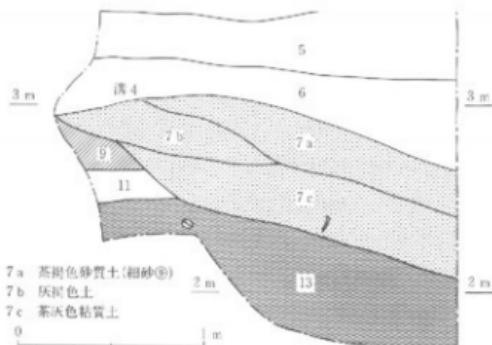


図8 溝状遺構4断面図(TP 1西壁) (縮尺1/30)



図9 学生部男子学生寮予定地出土遺物1) (縮尺1/30)

番号	階級	出土場所・層位	記述・手法の特徴(1か)	基　式	基　上
1	3年	TP 3, 14号	外側束方向の巻貝条痕消退, 口縁部張り, 内側不整方向の条状溝型後摺ナガ	明灰褐色	明灰褐色
2	*	*	外側束方向の巻貝条痕消退, 外面横方向の丸み由来變形長摺ナガ	内側灰白色の灰黑色	暗褐色



番号	器種	出土施設・層位	出土地・手仕の特徴等	色調	地・上
3	漆 棺	T.P.3.32層		灰褐色	糊一油漆
4	+	+	内丸土器型、外頭部陶による手突文、外底に1.2cm幅丸突	青灰色	糊一漆
5	+	T.P.3.32層	口縁部肥厚、外頭部イグ、口縁外側に記録する酒呑文	灰褐色	糊一漆
6	+	+	内頭部凹凸、外頭部式のため外壁不規、内下マサ、外頭丸突	青褐色	糊一油漆
7	+	3.5層	が面性力内の垂直毛刺跡、口縁部イグ、内頭部方向の弱い垂直溝	灰褐色	糊一油漆
8	+	3.5層	右頭上端・内頭部方向のV字形溝跡、外力沈透による酒呑文、しと音文	灰褐色	糊一油漆
9	+	3.5	内外面全テヌ、外頭部沈透文	灰褐色	糊一油漆
10	+	3.5	左頭上端・内頭部V字形溝跡による酒呑文	灰褐色	糊一油漆
11	漆 壺	T.P.3.5層下部	あわ底、金剛輪式の44目網目	青灰色	糊一油漆
12	+	+	外頭部力の浅い垂直溝	灰褐色	糊一油漆
13	漆 鉢	T.P.4.3層下部	内頭部側面で斜め引いた内側に沈透	灰褐色	糊一油漆
14	+	+	外頭・下端・半周方向のV字形溝跡、内頭下端をかかじて内側に酒呑文	灰褐色	糊一油漆
15	漆 壺	T.P.8.9層下部	外頭部向ため深め44目、内頭ナマ、外頭丸突文	青褐色	糊一油漆
番号	器種	出土施設・層位	断面寸 幅×高 幅×高 幅×高 幅×高	特徴	手仕の特徴
16	石 砖	T.P.3.34層	2.9 2.5 3.0 セミカット	表面の凹凸状を残す。うねり・上部腰溝が残す。	
17	ブランク	8.33.35層	7.3 2.7 2.2 45.5 3	執法の基部の二辻を削消し、舟押法に準ずる。	

図10 学生部男子学生寮予定地出土遺物(2) (縮尺1/3, 石器1/2)

- 註1 古留秀敏他「岡山大学津島地区遺跡群の調査II」『岡山大学構内遺跡発掘調査報告』第2冊 1980年
- 註2 南の低地部は1985年12月から発掘調査が実施されており、9層の起伏が判明しつつある。ここでは、模式的に複高地部と低地部とに大別するにとどめた。
- 註3 古留秀敏他「岡山大学津島北地区小橋法日黒遺跡(AW14区)の発掘調査」『岡山大学構内遺跡発掘調査報告』第1集 1985年

(2) 鹿田地区

① 医学部附属病院基幹環境整備工事に先立つ範囲確認調査(鹿田地区、A133区他)

調査経過

工事予定地に約 3×3 mの規模の試掘坑3ヶ所(TP 1~3)を設定し、機械によって厚さ0.9~1.5m前後の造成土を除去後、以下は人による掘り下げにより調査を行った。調査面積は28m²、期間は1985年12月23日~27日の5日間である。

調査結果(図11・12、図版10~13-1・2)

1層は造成土である。西側に位置するTP 1においては厚く、1.5mを測る。東側のTP 2・3では厚さは0.9m前後である。

2層は造成直前の水田土壤と考えられ、明治期があてられる。上面レベルはTP 1で標高1.4m、TP 2・3で標高1.7m前後を測り、両者間に0.3~0.4mの比高差が認められる。

3層は出土遺物から中世の水田土壤と考えられる。

4~7層からは中世の遺物が少量出土しており、該期の水田土壤の可能性が想定される。また、TP 2で5層上面から掘り込まれた東西に走る溝が1条検出された(図12)。深さは35cmを測り、埋土下半には砂が厚く堆積する。伴出遺物は認められないが、掘削面が中世包含層にあ

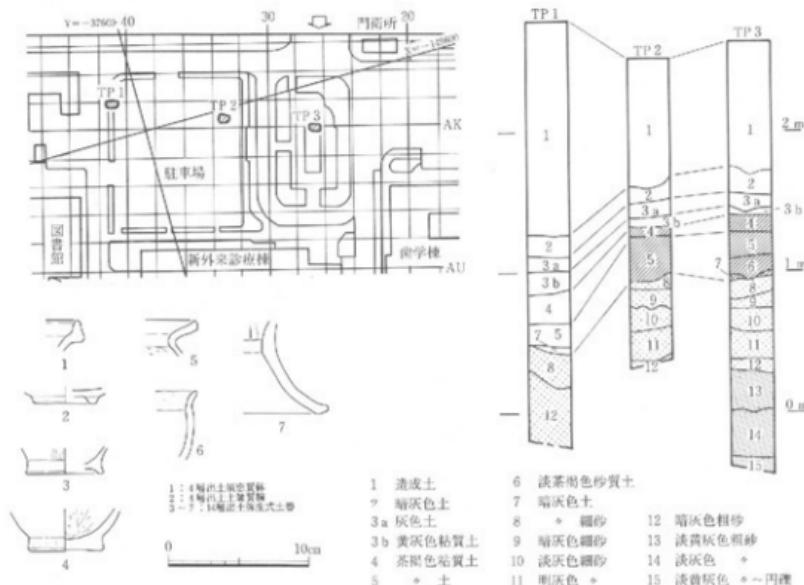


図11 試掘調査④調査地点・柱状図・出土遺物 (縮尺1/2000・1/40・1/4)

たことから該期に属すると判断される。

8~12層は細砂層あるいは粗砂層である。上面レベルはTP1で標高0.45m、TP2・3で標高1mを測る。TP2・3では無遺物の状態であるが、TP1の12層中から中世土器が少量出土していることから上限を中世に比定した。

13~15層はTP3のみで確認、調査した。8~12層より淡い灰色を呈す粗砂層である。上面レベルは標高0.25mを測り、標高0.4m前後まで調査を行った。下半部は湧水が激しい。弥生時代後期~古墳時代初頭の土器が比較的豊富に出土した(図11)。いずれも磨滅の顯著な小片で、付近からの流れ込み遺物と考えられる。また、14層からは流木も検出された(図版12)。

土層の説明はTP2の状態を基準としたがTP3ではやや明るい色調を呈し砂質を若干強め程度でほとんど同様である。一方、TP1ではやや状況が異なり、各層ともTP2よりは暗灰色の強い色調を呈し粘質も強い傾向を示すことから低湿地の状態が想定される。

まとめ

弥生時代後期~古墳時代初頭にかけては、試掘調査地点より南側の医学部附属病院外来診療棟(1983~1984年度発掘調査実施)の周辺に広がる微高地が庵田遺跡の中心であり、微高地部から1m前後低い位置にあたる当地点は遺跡の北限に近く、該期には流水による砂の堆積が著しい環境であったとみられる。出土遺物はそういう状況下での流入品と考えられる。また、この段階(13層上面)に大きな比高差が存在し、西方(TP1付近)に深い谷地形が形成されていたと推定される。この地形は近代の水田に至るまで影響を残し水田の比高差を生む。

その後、中世までは、やはり、水の影響による砂層が厚く堆積することから弥生時代と同様の環境が長期間続き、中世段階に広く水田化がなされ、近代の造成前の水田に至ると推定される。水田以外の遺構としてはTP2において東西方向に溝が1条検出されている。(山本)

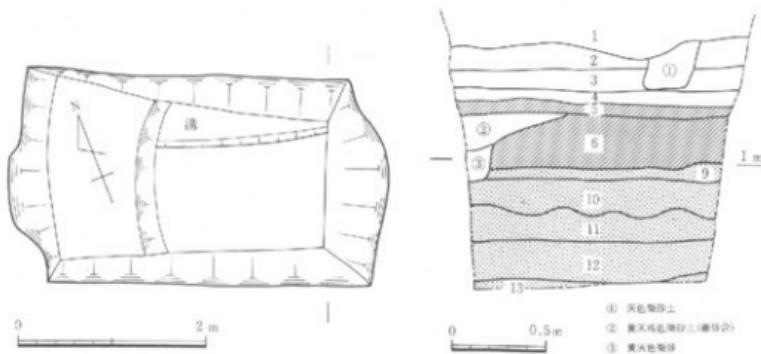


図12 溝状遺構 平・断面図(TP2) (縮尺1/60・1/30)

3 立会調査

本年度の立会調査としては津島地区1件、鹿田地区11件の合計12件が実施された。

(1) 津島地区

① 工学部校舎（三次元棟）新営工事に伴う立会調査（表1-④）

調査地点は津島北地区にあたり、津島地区構内地標ではAV06~07区に位置する（図版2）。

工事による掘削は一部の深掘り部分を除き、地表面下約1.7mの深さまで、造成上直下の明治時代の旧水田層またはその下位の近世水田層中に掘削はとどまっている。調査地点東北端に位置する深掘り部分は、東西2.3m、南北1.1mの範囲で現地表面から約270cmの深さまで掘削した（図13）。壁面観察によると、1907~1908年にかけての山陸軍屯営用地造成の際に盛られた造成土は厚さ135cmを測り、その下には造成直前の明治末の水田層（2層）が堆積し、以下現地表面から220cm前後の深さまで数枚の水田層が堆積している（3~6層）。これらの水田層は近世以前のものとみられるが、いずれの層からも遺物の出土をみず、各層の具体的な時期は不明である。その下の淡灰色粘質土（7層）はよくしまっており、上下の層との関係から、本地区のはほ全域で認められる縄文時代晚期~弥生時代前期以前に堆積した黒色土^{注1)}に対応する可能性も考えられるが、その性状がやや異なり明確ではない。壁面観察では本層上面からの幅約22cm、深さ約18cmの落ち込みを確認したが、その性格は不明である。また、本層からは同一個体とみられる時期不明の土器片2点を検出したが、ともに磨滅が著しく、周辺の遺跡から流れ込んだものと考えられる。本層以下は明灰色粘質土（8層）と灰黑色粘土上（9層）が堆積し、いずれも無遺物の自然堆積層とみられる。

以上の観察をまとめると、本地点は紀文海進以降の海退・沖積化にともなって形成されたとみられる黒色土の存在が不明であり、また明確な時期決定をおこなえる遺物を欠くため、この後背湿地がいつまで存続したかは不明である。しかしながら、津島地区の他地点の状況から考えて、遙くとも中世には調査地点周辺は水田化されたものと考えられ、7層上面の落ち込みも水田に関係する遺構であった可能性があろう。また、7層中からは上述したように流れ込みと考えられる上器片が出土していることから、本地点の周辺には集落が存在する可能性も推定される。（栄）

注1 岡山大学農学部構内の調査報告書においてX層としたものである。

古畠秀敏他「岡山大学津島地区遺跡群の調査Ⅱ」

『岡山大学構内遺跡発掘調査報告』第2集 1986年

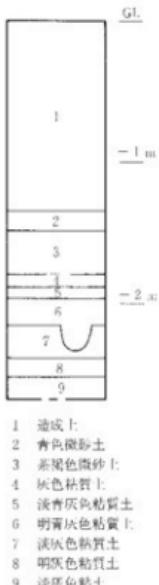


図13 立会調査④

深掘り部分層序

（原尺1/40）

(2) 鹿田地区

本年度の立会調査は敷地の北半部および西半部について実施されたが、その中で造成土以下に達した調査に限定すると、外來診療棟周辺部に集中する（図版4）。

全体的に、造成土は厚さ約0.8mを基本とし、造成土直下には近世～近代の水田層が、統いて中世の包含層が確認される。このような包含層の残存は既設の大型建造物下については期待薄であるが、その他の地域については、多くの場合、造成土下あるいは擾乱部下に保存されており、深い擾乱がおよぶ場合もその周辺部に残されている状況が看守された。

以上のような結果から、鹿田地区において、立会調査が旧地形復元・遺跡の保存・確認等にとって非常に重要であることが再認識された感がある。

造成土以下に達した調査の中で遺構検出に及んだものは2件あり、各々について次に詳細を述べたい。

① 医学部附属病院外來診療棟関係屋外排水管理設工事に伴う立会調査（表1-⑥）

新外來診療棟東側（A X～B F 23, B G～B H 24・25区）（図14・15・18、図版13-3）

調査範囲は幅1～1.5m、総延長約50m、掘削深度は管路部分において地表下1.3m、会所マス部分（5ヶ所）において地表下1.5m～1.7mに達した。

1層の造成土は北端部（A地点）で0.75～0.9m、南側（D地点）で約1mを測る。

造成土直下の2層からは、A・B両地点間の管路部分において、古墳時代後期の須恵器杯身片（図18-4）や土師質高台付柄等の中世土器片などの出土が認められたが、鹿田地区における各地点での土層観察から、造成土直下には明治期と推定される水田層を伴うことおよびその土質から2層は該期の水田層と判断し、これらの遺物は混入品と考えた。

3層は出土遺物から弥生時代後期後半～古墳時代初頭の包含層と考えられる。上面レベルを検討してみると、A・B両地点では標高1.5m前後を中心比較的安定した状態を示すが、B地点から南に向っては緩やかに下降していく傾向が認められる。その下降ラインは調査地点の東南部に位置するNMR-C T室（1983年度に発掘調査実施）へ続くと考えられる。NMR-

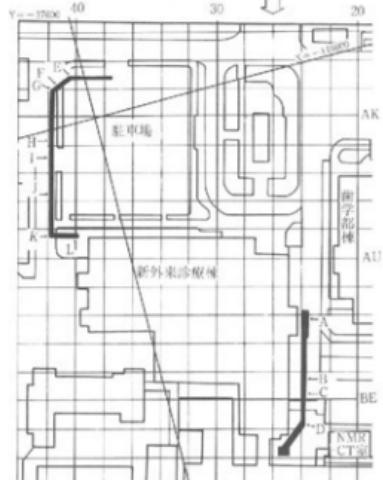


図14 立会調査⑥調査地点（縮尺1/2000）

C T室での3層対応上層の上面レベルは標高約1.2mである。^(註1)

この3層を切り込む遺構としては、A・B両地点において検出された溝1条が挙げられる。B地点の北約5mの地点を東西方向に走っており、幅70cm、深さ20cmを測る。底のレベルは標高約1.5mである。上半部には淡青灰色粘質土が埋積する。埋土からは弥生式土器・中世土器(図18-1・2)が出土しており中世に埋没した溝と想定される。

4層は掘削深度の深い部分でのみ確認された。比較的多くの遺物を含んでおり、調査区南端部では集中的に出土した(図18-5)。弥生時代後期の包含層である。

4層を切り込む遺構としては、A地点で検出されたピット3基が挙げられる(図15、図版13-3)。P1は径22cm、深さ13cmで、炭化物を多く含む灰色粘土上、P2は径約50cm、深さ7cmで暗灰褐色土上、P3は深さ10cmで炭・焼土を含む灰褐色土が各々埋積する。遺物としては、P3から古墳時代後期の須恵器杯身片(図18-3)が出土した。いずれのピットも古墳時代後期以降に属する可能性が高い。本来は、3層段階で検出される遺構であるが、工事と併行した立会調査であるため検出が遅れた結果と考える。

ところで、本調査区北半部(A地点周辺)は1983年度に実施した蒸気配管埋設工事に伴う立会調査(表3-3)の西側に接する位置にあたる。当時の調査で弥生時代後期を中心とした遺物・貝殻を検出したV層の上面が本年度調査の3層上面に対応し、標高約1.5mあたりで一致する。また、古墳時代後期～中世の包含層が削平されて存在しない点においても同じ状況下にあり、本調査地点が施設遺跡において最も高い部分に位置し、安定した微高地の中心に近い場所である可能性が再確認された。

旧外診療棟西側(A G37~40、A H~A S41、A S39~40区)(図16~18)

調査範囲は幅約1.1m、総延長約80m、掘削深度は管路部分で1.3~1.4m、会所マス部分で

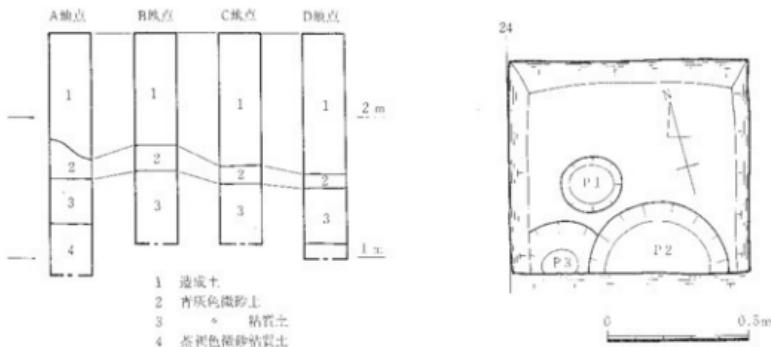


図15 立会調査⑥東側調査地点柱状図・A地点遺構平面図 (縮尺1/40-1/20)

1.5mを測る。

1層は造成土で、厚い地点で1.3m、薄い地点で0.7mと地点によって差が大きい。

2層は出土遺物から近世～近代の水田層と考えられる。僅かな色調の濃淡・土壤のしまり具合・マンガン粒の量から三分が可能であった。鹿田地区全域で検出される明治期の水田層は、ここでは2a層に対応する。また、2層の上面レベルを比較すると、H地点とI地点の間、つまり、構内座標のAMラインを境に数値に大きなひらきが認められる。H地点以北では、一部に凹凸部分は存在するが、概して、地表下1.3m前後を示すのに対して、I地点以南では地表下80cm前後を中心としており、その差は50cmにおよぶ。

3層からはF・K地点などから土師質椀・土鍋等の中世土器片が出土している。しかし、周辺部での調査結果（試掘調査①、立会調査②）を考慮に入れると、その土層の対応関係から中

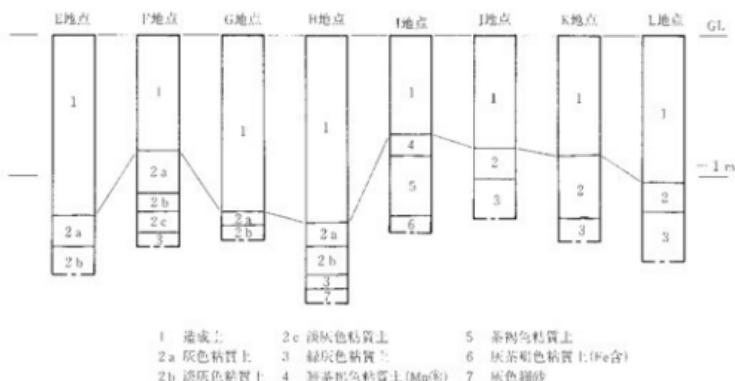


図16 立会調査⑥西側調査地点柱状図 (縮尺1/40)

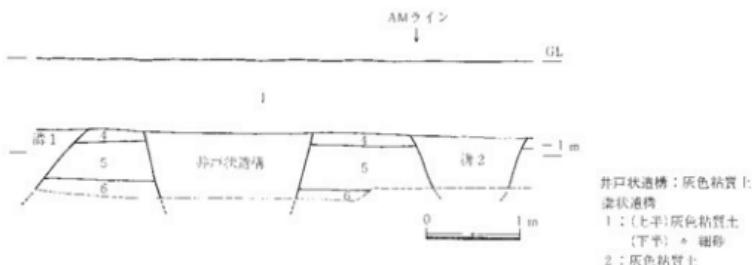
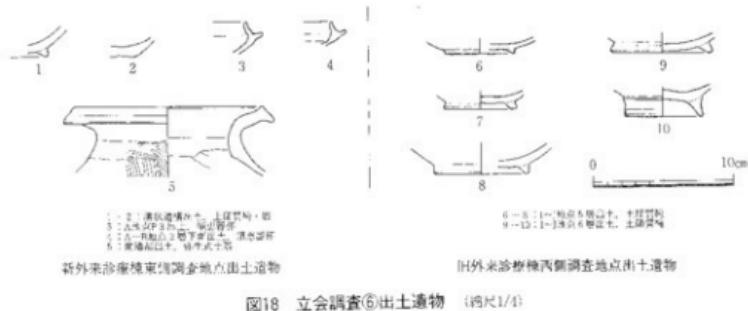


図17 立会調査⑥西側調査地点 井戸・溝状造構東壁断面図 (縮尺1/60)



世～近世の水田層と考えたい。また、3層の上面レベルはH地点以北では部分的検出のため不明瞭ではあるが、地表下1.6m前後の可能性が高く、I地点以南では地表下1.2m前後に求められ、その比高差は40cmを測る。このように、前述したH・I地点間に認められた高位部と低位部の存在は3層段階においても認められる。

4～6層はI地点を中心とした幅約4mの範囲のみにおいて確認された。出土遺物(図18-6～10)・土質から中世の包含層と判断される。本調査地点に近接する外来診療棟改築工事に伴う発掘調査(1983～1984年度実施)地点においても中世包含層が基本的に存在していない状況にあったことを考えると、近世以降に大規模な削平が行われた可能性が高い。

7層は細砂層で、試掘調査④(表1)の8～12層に対応すると考えられることから中世に比定される。

遺構としてはH-I地点周辺において近代の井戸状遺構が1基、そして、その両側には同じく近代の溝状遺構1・2が各々検出された(図17)。井戸状遺構は径1.82mを測る。未掘のため詳細は不明であるが、造成土面下からの掘り込みである。溝状遺構1・2はいずれも幅1.2m前後を測る。

以上のように、本調査地点は地形的にはH地点以北が非常に深い谷状地形を形成し、I地点以南に微高地が広がる状況が推定される。また、H地点では中世の包含層が存在せず、砂層(7層)が直接3層下にあることから、低位部が中間段階においても非常に水の影響を受けやすい状態にあったことが予想され、試掘調査④と同じ状況が看守された。

(山本)

註1 岡山大学埋蔵文化財調査室「岡山大学構内遺跡調査研究年報」1 1985年

註2 同上

註3 岡山大学埋蔵文化財調査室「岡山大学構内遺跡調査研究年報」1・2 1985年

② 医学部附属病院基幹環境整備課化工事—電気配線ハンドホール掘削に伴う立会調査

(表1 ⑫-3)

新外來診療棟の北側に電気配線のハンドホールを設置するにあたり、A G 31・24、A F 23区の各地点において立会調査を行った(図19)。

掘削深度はH-A地点(A G 31区)で地表下約1.7m、H-B地点(A G 24区)で地表下1.35m、H-C地点(A F 23区)で地表下1.3mである。

1層は造成上で0.9m~1.1mの厚さを有す。

2層からはH-A地点で近世土器片が数点出土したことから、近世~近代の水田層と考えられる。3層では遺物が未検出のため時期は不明であるがやはり水田層の可能性が高い。また、H-C地点では3層上面から撃り込まれたビットを確認した。その他の遺構としては4層からの落ち込みがある。その4層以下については、本調査地点が本年度試掘調査①(表1)によって調査した地点の北側に位置し、TP 2とH-A地点、TP 3とH-B地点が10~20m間隔で近接することから、堆積層の対応関係をTP 2とH-A地点で検討すると、TP 2の2・3層がH-Aの2層、TP 2の4・5・6・7層がH

Aの3・4・5・6層に各々対応し、両者間に矛盾はない。このことからH-A~C地点における4・5層は中世包含層、そして、4層の落ち込みも中世に属すと判断される。

また、全体的な地形を復元すると立会調査のレベルが地表値を基準にしているため不明確ではあるが、TP 2・3とH-A~Cとの間に大きな落差は認め難く、南に位置する外來診療棟周辺からはかなり低い地点ではあるが、北に向って10~20m程度で急激に落ち込むような状況ではないことが確認された。(山本)

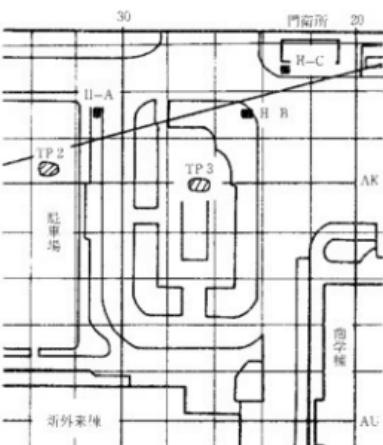


図19 立会調査⑫-4 調査地点 (縮尺1/1200)

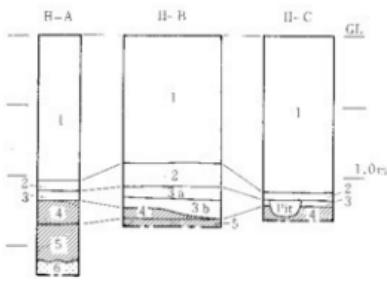


図20 立会調査⑫-4 柱状図 (縮尺1/40)

第3章 1985年度普及・研究活動

1 資料整理

本年度、調査室では次の3件の発掘調査の資料整理を行った。

- ① 小橋法目黒遺跡（岡山大学津島北地区 A W14区）
4月30日まで吉留秀敏を中心に実施、終了
- ② 農学部構内合併処理構造予定地及び排水管埋設予定地（津島地区 B H13区他）
6月30日まで吉留を中心として行い、転出後は柴一郎が引き継ぎ、新納泉氏（岡山大学文学部助手）と共に8月～12月に整理を実施した。

資料の自然科学的検討は以下のようにして行った。

- 11月11日 佐々木章氏（大分短期大学講師）にプラントオバール分析依頼
11月11日 三好教夫氏（岡山理科大学教授）に花粉分析依頼
1986年1月30日 佐々木氏より分析結果をいただく。
- ③ 鹿田遺跡（医学部附属病院外來診療棟改築及びNMR-C T室新築に伴う工事）
6月30日までは吉留を中心として実施し、7月1日から山本悦世が引き継いだ。
資料の自然科学的検討は以下のようにして行った。
()内は依頼当時の官職名である。
10月9日 小田嶋悟郎氏（岡山大学歯学部教授）に乳歯の論文転載を依頼
10月31日 烏海徹氏（岡山大学農学部教授）来室、馬骨を中心に骨の鑑定をいただく。
11月1日 畑柳鎮氏（岡山大学農学部教授）来室、木器の樹種鑑定依頼、打合せ
11月12日 逸見千代子氏（岡山大学理学部助手）に赤色顔料の分析依頼
11月19日 三浦定俊氏（東京国立文化財研究所）にガラス淬分析依頼
11月26日 笠原安夫氏（元岡山大学農学部教授）、武田満子氏に種子の鑑定をいただく。
(岡山大学農業生物研究所にて)
11月28日 小田嶋教授より、鹿田遺跡（外來診療棟改築予定地）の柱穴出土の歯について左奥の上下第三大臼歯であるとの鑑定結果が報告される。
12月2日 大津浩三氏（岡山大学理学部助手）に貝の種類鑑定を依頼、比治山女子短期大学の稻葉明彦教授を紹介される。(岡山大学理学部附属臨海実験所にて)
12月4日 稲葉明彦氏（比治山女子短期大学教授）に貝種の鑑定をいただく。(広島にて)
12月1日 三浦氏より苅谷道郎氏（日本光学株式会社）と共に分析依頼の受理
12月13日 烏海氏より馬骨の年令鑑定結果をいただく。9才～10才とのこと。

- 12月23日 藤下典之氏（大阪府立大学農学部）より、雑草メロンの種子を検討したいとの申入れ。
- 1986年1月17日 逸見氏より分析結果をいただく。島海氏より詳細な分析結果をいただく。
- 3月14日 三浦氏よりガラス滓分析結果をいただく。
- 3月14日 笠原氏より種子の写真をいただく。
- 3月20日 畠柳氏来室、木器の樹種鑑定をいただく。

2 刊行物

- ①「岡山大学津島北地区小橋法目黒遺跡（AW14区）の発掘調査」『岡山大学構内遺跡発掘調査報告』第1集
5月7日 発行
- ②「岡山大学津島地区遺跡群の調査Ⅱ」『岡山大学構内遺跡発掘調査報告』第2冊
12月12日 原稿事務局へ納入完了
1986年2月4日 広和印刷来室、打合せ
3月31日 発行

3 調査員の活動

- 資料収集活動
- 余 一郎 <石器中心に>
岡山県埋蔵文化財センター
中国古代歴史民俗資料館
福岡市教育委員会 他
- 山本悦世 <弥生時代から古墳時代初頭の土器を中心につ>
高松市教育委員会
善通寺市教育委員会
瀬戸内海歴史民俗資料館 他
- <中世土器を中心につ>
大阪府、和歌山県、京都府（平安博物館他）
兵庫県教育委員会 他
中世土器研究会参加

第4章 1984年度以前の活動と1985年度の遺物保管状況

1 1984年度以前の主要調査

1984年度以前の岡山大学構内における緊急調査については、調査室設立以前（1980～1982年度）と設立以後（1983・1984年度）とに分けて、表2・3に挙げた。発掘・試掘調査については全てを、そして、立会調査については主要なもののみを対象としている。

表2 1982年度以前の主要調査（1980～1982年度）

年度	地名 現跡名	種類	所属部	調査名稱	調査組織	調査面積	文献	備考
1980	農田	立会	農	同附属病院棟新築工事	岡山市教育委員会	8.0		
1981	津島南 BD26	*	農	寄合田經營工事	*			
	津島北	*	文、法 科	合併知理機場放工事	*			
	津島南BD09-11 BD09	*		基幹整備（武同溝取付）工事	*			
	津島南BD～BE 04-07	*	学生	陸上競技場改修（配水管 埋設）工事	*			
	農田	*	疾 病	高気圧治療室新築工事	*			
	*	*	*	動物実験施設新築工事	岡山県教育委員会			試掘調査をせず放塗 残存壁面等の調査
	*	*	*	病理解剖体験型処理保管 革新基工事	岡山市教育委員会			
	*	*	区	運動場改修工事	*			
1982	津島南北 AV06-10 AW05-14, AX08 BD07, BE10	試 挖		排水基幹整備工事	*			津島AW14区で弥生 時代住合戸を確認 調査
	小橋法昌風 津島北 AW14	発 掘	法、文	排水管集中槽（KPI）埋設 工事	岡山大学	24.0	3	
	津島南	試 挖	学 生	武道館新築工事	岡山市教育委員会	2.3		
	津島北AY15-16	*	法、科	校舎新築工事	*	7.0		
	農田	*	区	坂本屋在庫新築工事	岡山県教育委員会	8.0		
	*	*	区 病	外來診療棟改築工事	岡山県教育委員会 岡山県教育委員会	4.0	2	
	*	立 会	災	動物実験施設改築排水 管、ガス管埋設工事	岡山県教育委員会		1	
*	AE～AN22 AE22～26	*	南	電話ケーブル埋設工事	岡山市教育委員会 岡山県教育委員会 岡山大学厚生文化 財調査室			

文献 1. 光永真一「岡山大学医学部附属病院動物実験施設新築工事に伴う配水管付設工事に伴う立会調査」

『岡山県郷土文化財時報』13 1983 岡山県教育委員会

2. 河本 清「岡山大学医学部附属病院外来棟改築に伴う確認調査」『岡山県郷土文化財時報』13
1983 岡山県教育委員会

3. 第3章 2 ①

表3 1984年度以前の主要調査(1983~1984年度)

表3-(1) 発掘調査

年度	調査名・地区名	所属部	調査名称	期間	面積(m ²)	備考	文献
1983	麻田遺跡	医病	外木診療棟改築工事	1983.7.27~11.22 1984.1.9~8.31	2.188	弥生時代中期後半 ~中世集落址	④ ⑤
1984	All-BD28~39						
1983	鹿田遺跡 BG-BH19~21	*	NMR-CT室新築工事	1983.8.1~12.30	176	弥生時代後期 ~中世集落址	④
	津島南 RL11~18, BF17~18 BG14, BH14~15	益	排水管埋設工事	1984.1.9~3.5	265	魏文時代晚期 ~弥生時代前期聚落址	③
*	BH13	*	合併処理施設工事	1983.11.14~11.22 1984.1.9~3.5	276	魏文時代晚期 ~津山時代中期聚落址	③

表3-(2) 試掘調査

年度	調査名・地区名	所属部	調査名称	掘削深度(m)	備考	文献	
1983	津島南 BH13	農	合併処理施設設予定地	2.5	弥生前期土器片 1983.11月~1985.3月発掘調査	③	
*	BF14~15~18 BF14~18 BG14, BH14~15	*	排水管理設予定地	2	弥生前期土器片 1984.1月~1985.3月発掘調査	③	
*	BF17	*	排水用中間ポンプ構造設工事	3.5		④	
*	BF22~23	農	農場舎新築予定地	2~3	沃成土は0.6m, 上器片	*	
*	BC15, BD15	事務局	大学事務局改築予定地	*	*	*	
*	BB10	学生部	保健管理センター改築予定地	*	*	*	
*	BH16	事務局	岡山大学津島宿泊所改築予定地	2	*	*	
	津島北 AW05	T.	校舎増築予定地	3	*	*	
					1m, *	*	
1984	鹿田 BT29~30	医病	西病棟北側受水槽工事予定地	1.4	*	0.9~0.7m 中世包含層・中世土器	⑤
*	CU23,CZ19~24	医病	医療技術短期大学部新宮予定地	2.7	*	0.8~1m 中世・古代の遺物	*

※ 文献番号は第1章、2、1984年度以前の刊行物の番号に対応する

文献のは、岡山大学埋蔵文化財研究室「岡山大学津島地区遺跡群の調査」(農学部構内BH13区他)」「岡山大学構内遺跡調査報告書」第2冊 1986

表3-(3) 立会調査

年度	遺跡名 調査地区名	所属部	調査名稱	掘削深度(m)	備考	文献
1983	岡山市東山	教育	地域中学校改築予定地	4~5	シルト層中	④
	飛田 AR38, BC10	医療	外來診療棟及び耳鼻咽喉科棟 基礎杭架立状況確認調査	2.5~3		◆
	飛田 BS26	医療	中央診療棟、北病棟排水管工事	0.5	造成上中	◆
	津島北 AX15	文	中塩水循環地下ケーブル埋設工事	0.7	◆	◆
	飛田 AX23	医療	旧中央診療棟改修工事	1	◆	◆
	飛田 AI32	医療	外來診療棟シールド敷付に伴う アース電線設工事	2		◆
	飛田 AM~BB39~41	医療	旧耳鼻咽喉科棟水道管修繕工事			◆
	飛田 DC38~42	医療	ブルーム透析機作業	0.7	造成中	◆
	飛田 AO57	医療	鉄筋コンクリートガス管改修工事	0.6	◆	◆
	飛田 AO~AY22	医療	外來診療棟蒸気管埋設工事	1.3	既生後瓦土器(分離形土製品), 古集積	◆
	津島南 BC~BF18	集	周辺採水集中槽・水道管埋設	1.0, 2.5		◆
	津島北 BA13		西門衛生改修工事	2.6		◆
	飛田 BH17~18	医療	混合病棟北側ガス管埋設工事	1	造成中	◆
1984	津島南 EF~FH18~22 BB~BG22~27	農	鰐湯整備事業	0.9		⑨
	飛田 BG~BH17~17	医療	NMR-CT室新設開削排水池設取付工事	0.6~1.5		◆
	飛田 BD~NH64	医療	旧基盤下複数施設整備工事	0.8		◆
	津島北 AW~AX11 AZ~BA12~13	博	総合情報処理センター・通信用管路設立工事	0.7~1.4	造成土は0.9~1.2m	◆
	飛田 AE37	医療	外来診療改築延長柱設工事	1.95	◆ 1.25m	◆
◆	BQ33	医療	旧北病棟外來リカバリー室医療器具取付工事	1.6	◆ 1.5m	◆
◆	BS~BT21~22	医療	新診療棟改修ガス管埋設工事	0.8	造成上中	◆
	飛田 DB29	医療	垂穂病院前雨水道管修繕工事	2.0	造成土は1.15m 中世住居層, 中世・弥生上器	◆
	津島南 BH16	事務局	岡山大学非常勤講師宿泊施設設置工事	1.6	造成土は1m	◆
◆	BI15	◆	岡山大学南校舎合併処理槽取付工事	2		◆
◆	BI15~17	◆	岡山大学附属病院合併処理槽合併水道設置工事	1~2.2	造成土: 1m, 汽・土壤検出 弥生式土器片, 須志器片出土	◆
	飛田 BA~BB15~23	医療	外來診療棟ガス管引き込み工事	1.2~1.4	ほとんど造成土	◆

※ 文献番号は第4章、2. 1984年度以前の刊行物の番号に対応する

2 1984年度以前の刊行物

- ① 1983年10月19日 岡山大学構内遺跡現地説明会資料（鹿田地区 医学部附属病院外来診療棟予定地、NMR—CT室新築予定地）
- ② 1984年2月25日 岡山大学構内遺跡現地説明会資料（津島地区 排水基幹整備関係）
- ③ 1984年5月19日 岡山大学構内遺跡現地説明会資料（鹿田地区 医学部附属病院外来診療棟予定地）
- ④ 1985年2月28日 岡山大学構内遺跡調査研究年報1 昭和58年度
- ⑤ 1985年3月30日 岡山大学構内遺跡調査研究年報2 昭和59年度

3 1985年度までの遺物収蔵量および保管施設

(1) 遺物収蔵量

1985年3月31日における調査室の遺物収蔵量は、鹿田遺跡（医学部附属病院外来診療棟改築工事、NMR—CT室新築工事）：726箱、農学部合併処理槽・排水管埋設予定地：18箱、試掘調査：2箱、立会調査：4箱、総計750箱を数える。詳細は表4に挙げた。木器の中で大型木槽に保管のものについても容積が約30ℓのコンテナの数に換算している。

表4 収蔵遺物の現状

所属	種類	地区 調査名称	箱 数					文 献
			土器(土製品)	石器	木 製 品	金 属 器 他	%	
医 病 発 挖	鹿田 NMR-CT室	90 弥生後期～中世	3	20	田舟、井筒 糞斗、木簡他		3	116 ④
*	*	鹿田 外来診療棟	491 弥生中期後半～ 中・近世	6	60 短甲狀木製品 櫛状 他	1 銅鏡 ガラス片	52	610 ⑤
農	*	津島 合併処理槽 排水管工事	7 織文～弥生前期	1				18 ②
医 病 試 挖	鹿田、駐車場	1						1 ⑥
学生部 教 育 教 費	*	津島、男子寮	織文～弥生前期	14				1. ⑧
*	*	研究棟	35					
*	*	講義棟						
全 学	立 会	'83年度	2	分銅形土製品				2 ④
		'84 *	1					1 ⑦
		'85 *	1					1 ⑨
總 箱 数								750

* 文献番号は第4章 2. 1984年度以前の刊行物の番号に対応する。

文献④は岡山大学津島地区遺跡群の調査Ⅱ（農学部構内構内BH13区他）岡山大学構内遺跡調査報告第2回、1986

文献⑤は本年報3. 鹿田遺跡(NMR-CT室、外来診療棟)については近日報告書刊行予定

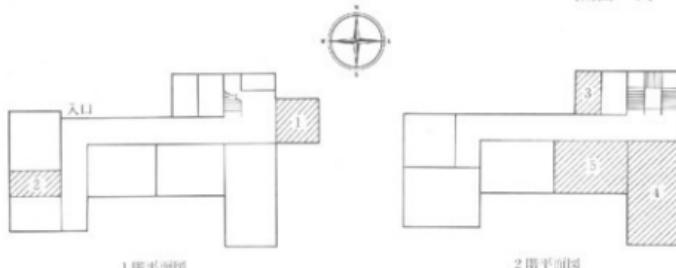
(2) 保管施設

調査室の使用施設としては当初、医学部旧基礎医学棟内に約55m²の一室を借用していたが、外來診療棟改築工事およびNMR-C T室新築工事に先立つ鹿田遺跡の発掘調査に伴い出土した多量の遺物の保管施設が必要となった。そのため、発掘調査終了後、鹿田地区構内の南東隅に建つ医学部附属病院旧精神科棟の一部を借用し、遺物および器材の保管・収蔵にあてると共に、調査後の資料整理に必要なスペースを確保した。面積は約150m²を測り、既存の医学部内の一室を合わせると、今年度の調査室使用面積は205m²となった。

調査室の旧精神科棟利用状況は図21に挙げた。



(南西から)



平面図 (縮尺約1/300)
1 器材置場 4 整理室
2 木器収蔵室 5 遺物収蔵室
3

図21 旧精神科棟

第5章 1985年度構内遺跡の調査および活動のまとめ

調査室の本年度の調査・活動は試掘・立会調査および資料整理、報告書作成を中心に行った。

津島地区では、学生寮の試掘調査において縄文時代晚期～弥生時代前期に比定される黒色土を津島北地区の北東端まで確認し、その上面レベルの比高差が小範囲内で予想以上に存在することを認めた。また、黒色上下は黄褐色砂と粘土に大別され、黄褐色土では縄文時代後期の包含層あるいは遺構の存在を期待される状況が一部検出された。津島南地区の教養部では黒色土の下に薄い砂層の堆積が存在し、津島北地区の学生寮・教育学部に比べ流水の影響を受け易い状況下にあたったと判断された。

鹿田地区では、外来診療棟の東～北側の状況がより明瞭になった。歯学部棟～外来診療棟周辺地域が鹿田遺跡の中でも最も安定した微高地の一つを形成し、そのため、中世の包含層は削平を受け、弥生の包含層が比較的高いレベルで検出される。そして、その包含層はB C ラインから緩やかに下降してN M R - C T 室に至り、微高地の端部へ続くことが推定された。北側では中世包含層が認められ、以下は弥生時代まで非常に厚い砂で埋没しており、水の影響が長期間及んでいたことが窺われた。特に、40ライン以西、A L ライン周辺以北は深い谷状地形が想定され湿低地の様相を呈していた可能性が高い。

以上のように津島地区では、これまで、縄文時代の朝霞鼻貝塚に近接しながら未調査に近かった津島地区東北部分において試掘調査が行われ、良好な資料を得ることができ、鹿田地区では、鹿田遺跡中心部周辺の旧地形の状況がより一層判明してきた。遺跡の保護・活用、そして各種土木工事に対応する上で有意義であったと考える。

本年度の調査室の活動は上述の調査以外の資料整理、報告書作成の作業が大きな割合を占め、農学部合併処理槽設置等に伴う発掘調査と医学部附属病院外来診療棟改築等に伴う発掘調査の報告書刊行を目指した。前者の調査では縄文時代晚期～弥生時代前期を中心とした津島地区での遺跡の存在を明らかにし、報告書刊行となった。後者の調査では岡山平野南端部に位置する鹿田遺跡の弥生時代～中世を中心とした集落の状況が確認され、近日報告書刊行にこぎつけている。

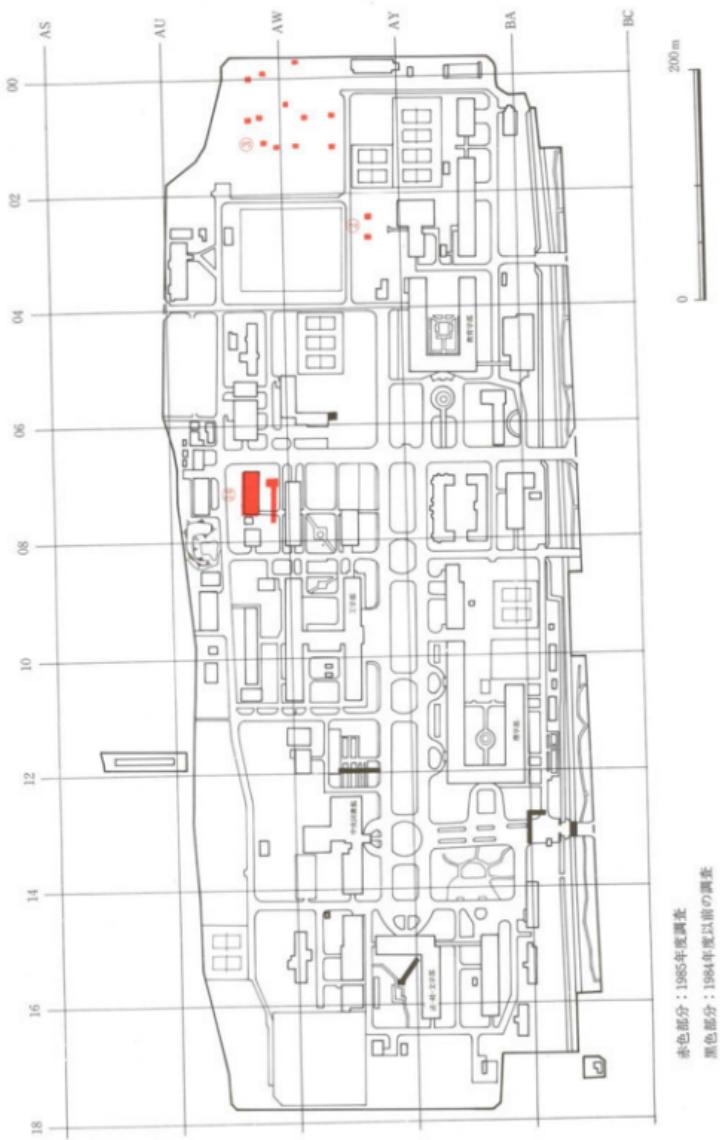
このように、発掘調査から報告書刊行まで調査室が一貫して行った最初の報告書が完成し、一つの調査を完了できたことは非常に有意義であった。今後も、発掘調査の早急な資料公開、そして幅広い活用を目指した報告書に向けて、より一層の構成員の充実と調査体制の確立を計ることを目標とし努力したい。

(山本)

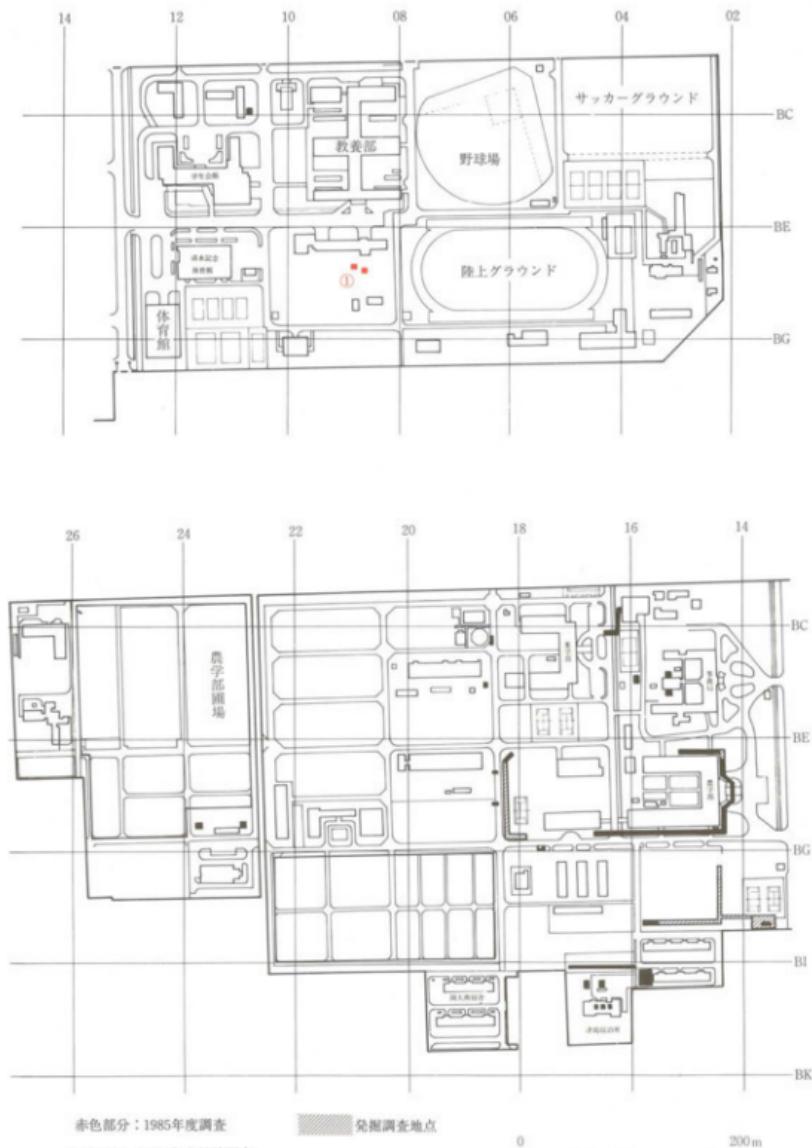
図版 | 津島全体図 (縮尺 1:2000)



図版二 津島北地区（縮尺1/5000）



図版三 津島南地区（縮尺1/500）



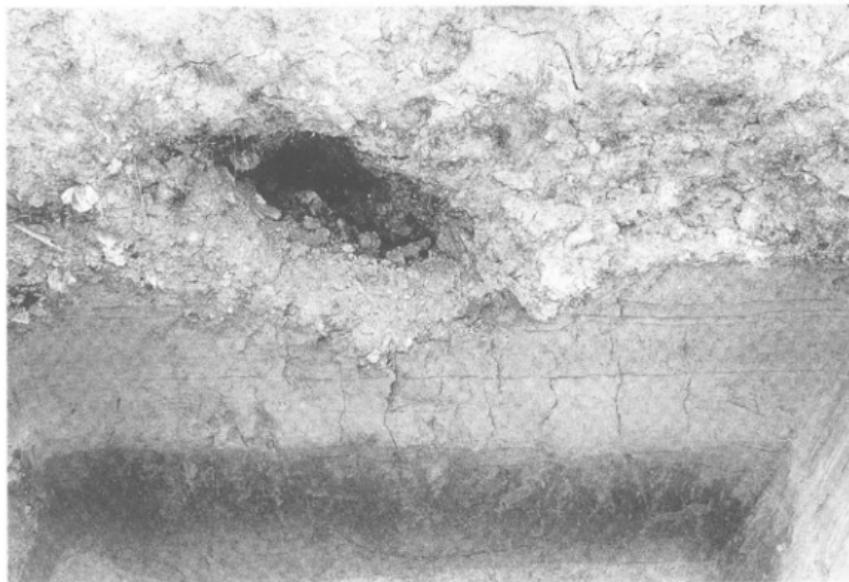
図版四 鹿田地区全体図および調査地点(縮尺1/500)



図版五 津島地区(教養部・教育学部試掘調査)

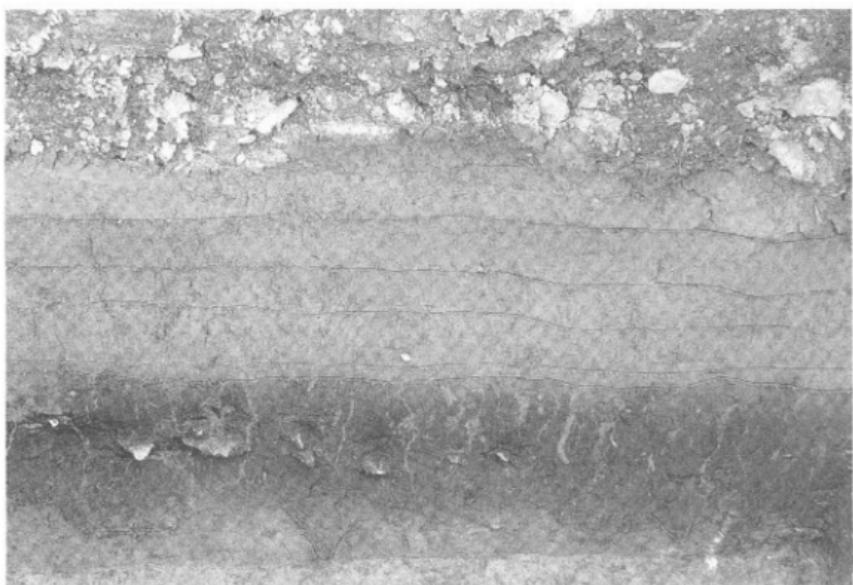


1 教養部TP 2 南壁断面

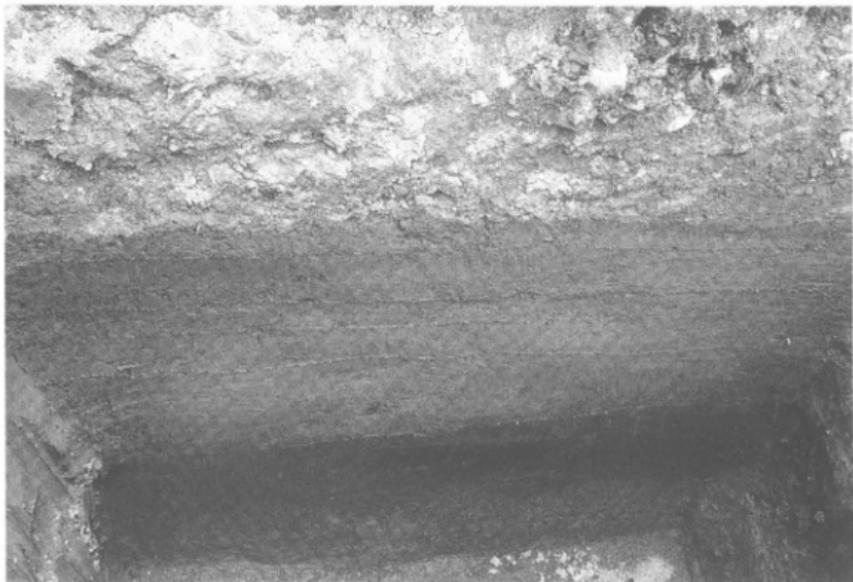


2 教育学部TP 1 東壁断面

図版六 津島地区(学生部男子学生寮試掘調査)



1 TP 4 北壁断面

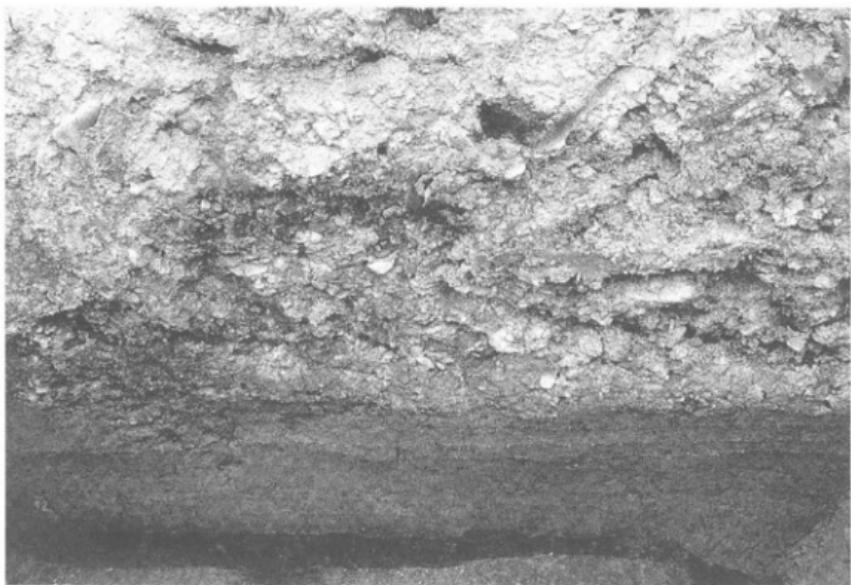


2 TP 9 西壁断面

図版七 津島地区(学生部男子学生寮試掘調査)

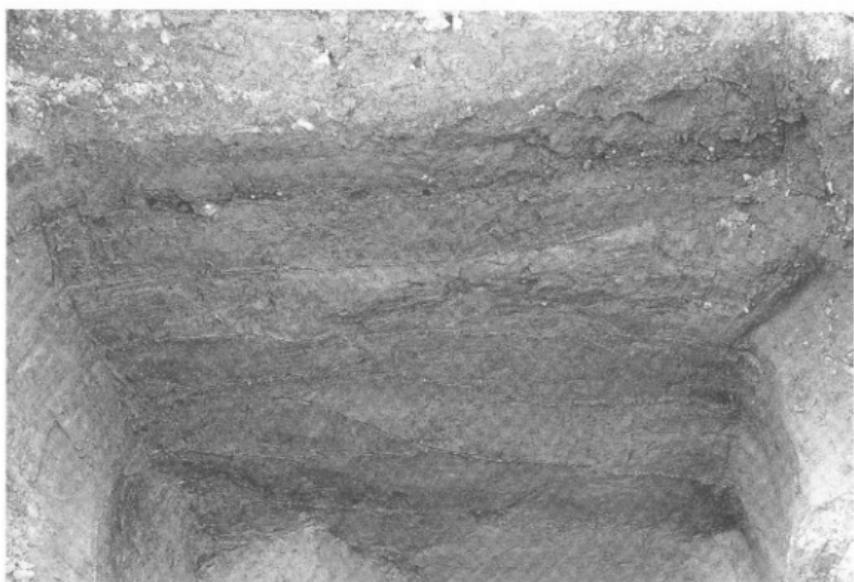


1 TP 6 東壁断面(溝状遺構 1・3)



2 TP 5 東壁断面(溝状遺構 2)

図版八 津島地区(学生部男子学生寮試掘調査)

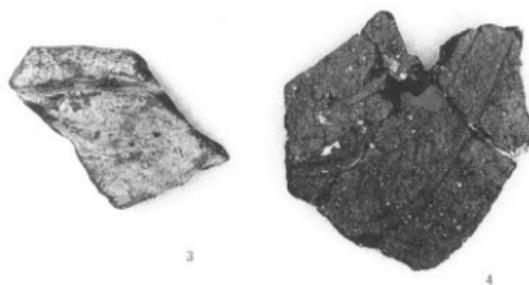
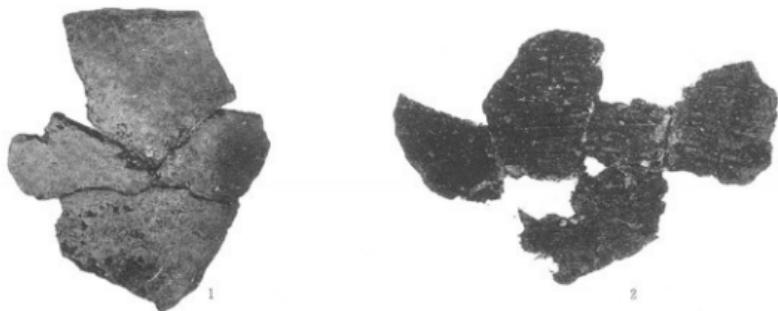


1 TP 1 西壁断面(溝状遺構 4)

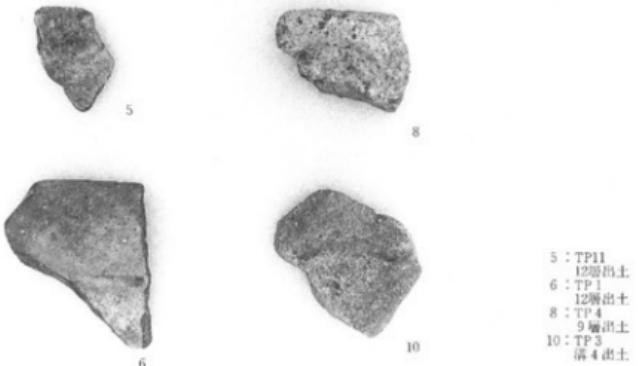


2 TP 1 南壁断面

図版九 津島地区(学生部男子学生寮試掘調査)出土遺物



1~4 : TP 3
14層出土



5 : TP11
12層出土
6 : TP1
12層出土
8 : TP4
9層出土
10 : TP3
落4出土

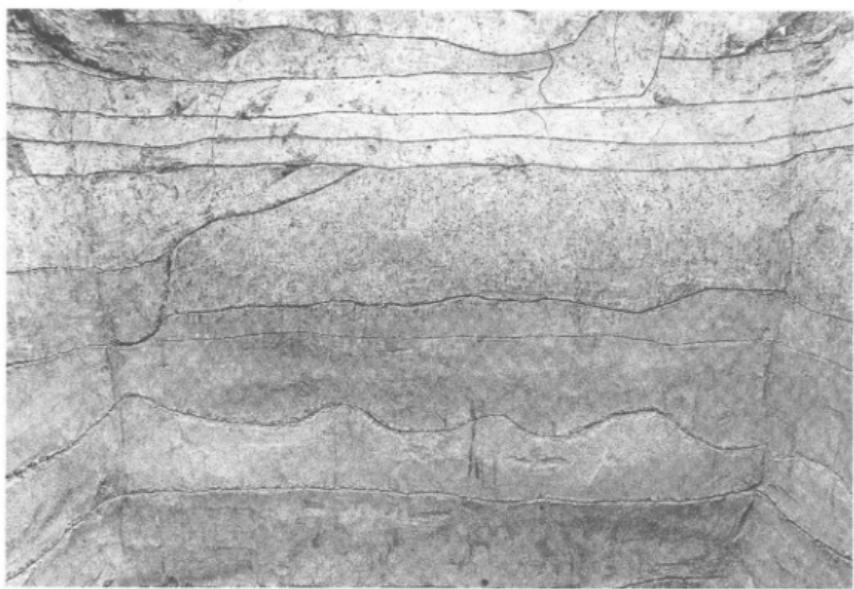
*土器番号は図9・10の番号に対応



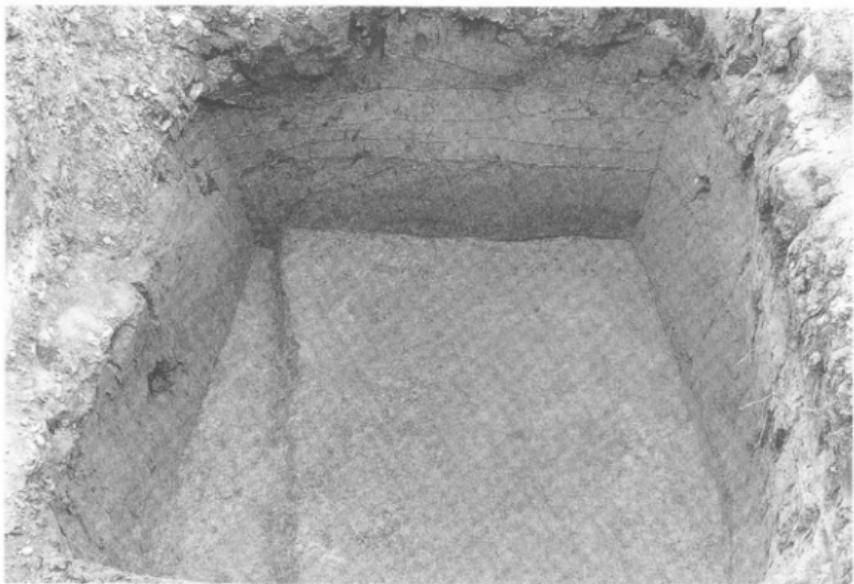
1 試掘調査地点(南から)



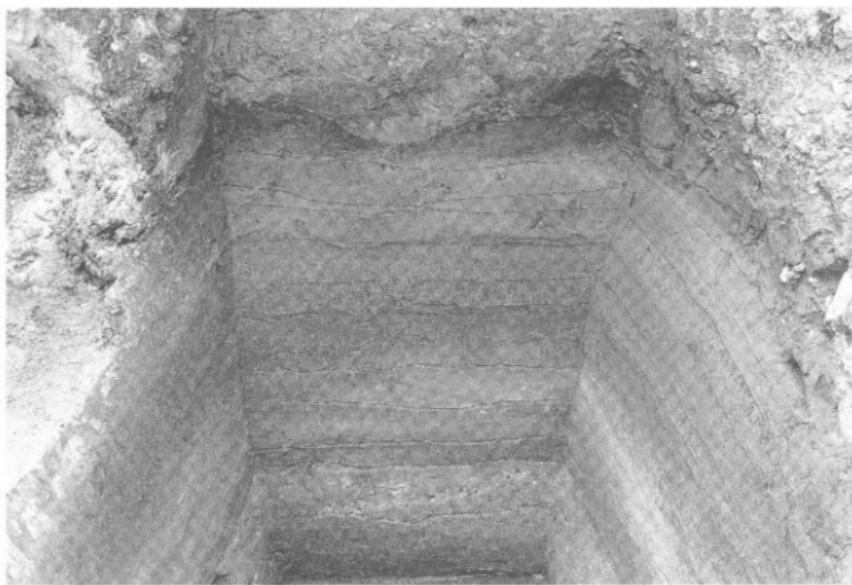
2 TP 1 南壁断面



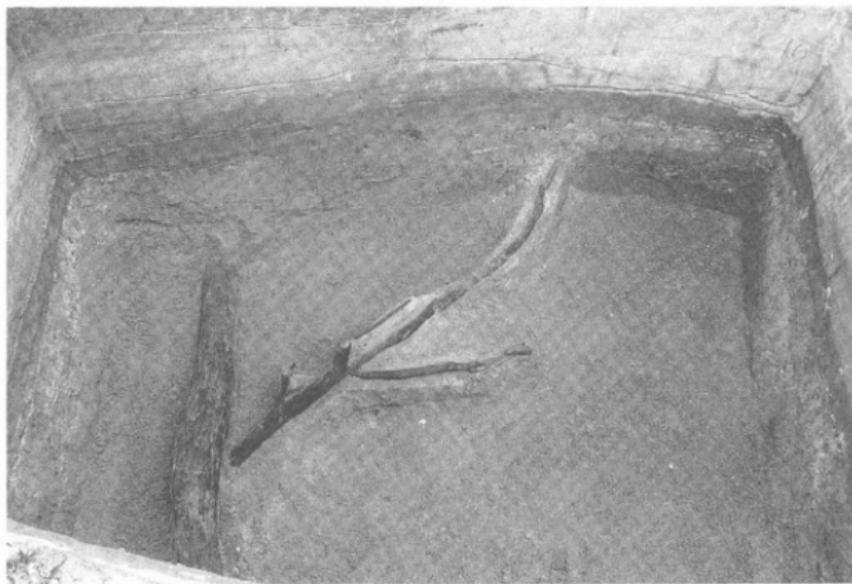
1 TP 2 東壁断面



2 TP 2 溝状遺構完掘状況(西から)

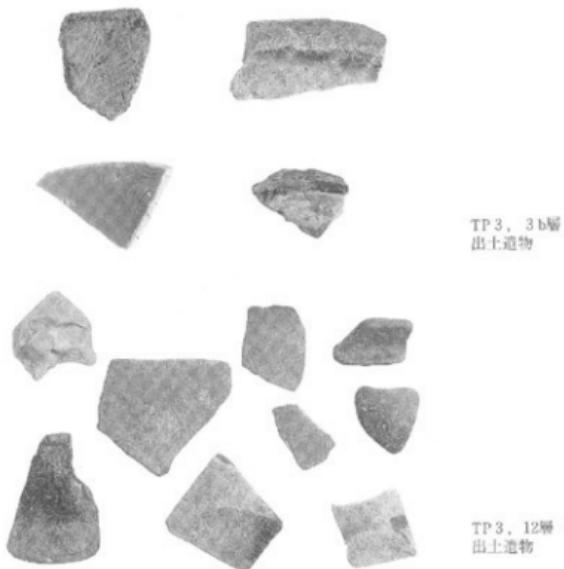


1 TP 3 西壁断面



2 TP 3 流木検出状況(南から)

図版十三 鹿田地区(試掘調査④・立会調査⑥)



1 試掘調査④ 出土遺物



2 立会調査⑥ 遺構完掘状況(東から)

1987年3月31日 印刷
1987年3月31日 発行

岡山大学構内遺跡調査研究年報3 1985年度

編集	岡山大学埋蔵文化財調査室
発行	岡山市鹿山町2丁目5番1号 (0862)23-7151(内線2159)
印刷	サンコー印刷株式会社 鶴林市真藤871-2 (08669)3-2121㈹